

平成31年度 学校評価総括表

奈良県立奈良西養護学校

教育目標		子ども一人一人の人権と人格を尊重し、発達段階や障害の特性に応じてその可能性の伸長に努める。また、社会参加と自立を目指して主体的・意欲的に学ぶ力や生きる力を育み、人とのつながりの中で心豊かに共に生きることを喜ぶ人間の育成に努める。			総合評価	
運営方針		本年度重点目標の達成をめざし、教職員一丸となってR-P-D-C-Aサイクルによる学校教育活動全般の充実・改善を図る。			B	
30年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		
学部間のつながりとキャリア発達の視点を意識した授業づくりに取り組み、自立活動の指導について内容やねらいを整理することができた。地域とのつながりを意識した学習を継続して設定し、その中で新たな活動に取り組むことができた。今後は、児童生徒の取組を地域や関係機関に知っていただくと共に、積み上げてきた専門的な知識を積極的に情報発信していく。		①主体的に生きる力を育てる教育活動の実践 ②学びのつながりを意識した系統性のある教育活動の推進 ③学びを広げる教育活動の推進、地域共生社会の実現 ④特別支援教育のセンター的機能の充実 ⑤校務の効率化・合理化の推進		・昨年までの授業研究の成果を生かし、自立活動の視点を踏まえた授業づくりを進める。 ・「考える力」「選ぶ力」「自分の思いを伝える力」を高める。 ・児童生徒が「できた」「わかった」と実感できる取組をつくる。 ・ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用した授業展開を創意工夫する。 ・キャリア教育の視点で、各学部のつながりを意識した教育活動を推進・整理する。 ・校内支援会議等を活用し、各学部間の連携と情報共有を進める。 ・学部の枠を超えて、児童生徒がふれあい、学び合える場をつくる。 ・地域の「人」「もの」「とりくみ(イベント)」を効果的に活用した授業・行事づくりを進める。 ・本校の取組を、地域の方々や教育・福祉等関係機関に積極的に情報発信するとともに、説明責任をはたす。 ・全職員が特別支援教育の専門家としての自覚を持って、研修に取り組む。 ・本校が地域のセンターとして存在する取組を積極的に推進する。 ・校務システムの効果的な活用法を検討し、校務の効率化を図る。		
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
小学部	学部間のつながりを意識しながら、小学部6年間の学習内容の指標を作成する。	教育課程を考える日の中でカテゴリー別の班に分かれ、「国語科」「図画工作科」について、6年間で取り組む学習内容やねらいを整理・検討する。	B	「国語科」「図画工作科」「高学年グループ学習・生活科」について、学習指導要領の教科の目標を基にしながら学部で検討し、目標のめやすを作成した。授業作りに役立つ。	発達の視点を基にしている現在のグループ学習のねらいと、学習指導要領を基に作成した目標のめやすとの整合性についての検討が必要。	○ネットトラブル・情報漏洩等に対するセキュリティーのあり方について タブレットを導入しての学習について、家庭での利用のルールやフィルターのかけ方等、どのようにすすめているのか、教育委員会ICT係などの専門家と連携して研修をするなど、セキュリティー対策をすすめてほしい、との意見をいただいた。
	自立活動の視点を生かした実践力を高める。	今年度より新たにに取り組む高学年の「はばたきタイム」の授業を実践しながら、ねらいや学習内容をよりよいものにする。低学年の自立活動の取組について整理し、学部で共通確認を行う。	A	低学年と高学年から事例児童をあげ、朝の時間や学級活動での動画、個別の指導計画を基に、実態把握を行い、自立活動実態シートを作成し、児童の中心課題や自立活動の具体的目標を検討した。高学年の事例児童について、自立活動の6区分27項目に即した実態把握、中心課題の設定を行い、はばたきタイムの取組が事例児童の自立活動の目標にあっているのか意見交換を行い、授業改善につなげた。	「あさのじかん」の持ち方について、引き続き今年度も大事にしていくことと、改善の必要のあることを整理する。高学年「はばたきタイム」構成などについて、児童に検討したい力を、基に検討し、より充実させていく。来年度の授業研究は「はばたきタイム」で実施する。	携帯電話等を所持している中学・高校生を対象としたスマートフォン安全教室を引き続き実施し、指導すると共に、次年度もICT機器の利用状況や必要なセキュリティー対策を踏まえ、保護者の協力のもと、効果的な活用方法、利用のルール、危険性について計画的に指導していくこととする。

中 学 部	キャリア発達の視点を軸とした授業の改善に取り組む。	昨年度からの「しごと」の授業システムの変更により、販売や報告会など新たな取組を取り入れながら、活動の幅を広げる中で、自己選択の機会や自発的活動を促し、達成感につなげる。	A	B	授業では、生徒がわかって動く環境作りを大切にし、視覚的な支援や構造化に取り組んだ。作業については、単にスキルアップを目指すだけでなく、試験対策をする過程を大切に「配達」「販売」したり身近なことで、使用したりすることで、達成感につなげた。	職業・家庭の目標において「身近な仕事」「働くことの意味」など、職業に係る学習をすすめていく。	○地域住民とふれ合える、ともに活動する取組について 運動会を見学して、グラウンドの中にいる生徒が主体的に動いており、日頃の活動の中でも地域に向き、学校に招待して、児童生徒の主体性が伸びる取組をしてほしい、また地域も高齢化が進んでおり、一緒に地域づくりを進めていってどうか、との意見をいただいた。 次年度は、高等部の社会参加学習の一環として、各自治会で実施されている清掃活動等取組に参加していくように、計画を進めていく。 カフェ学習についても、来校された方々へコーヒ一等を提供する活動を計画的に実施し、ボランティアに来ていただいている地域の方々や、他学部の児童生徒等にコーヒ一等を提供する活動を計画していく。
	学級集団の取組では、学年、学級の活動を設ける中で、個々の課題に合わせた取組を行う。	「ホームルーム」の教育課程の位置づけやねらいを確認し共通理解する。学習内容について文章化し資料を作成する中で、整理していく。	B		「ホームルーム」について、学内で研修を行ってきた。3つの柱「仲間づくり」「集団活動」「経験」として、学習指導要領上のねらいと照合させ、社会、美術、職業・家庭、自立活動にそれぞれ活動を追加した。事前・事後学習、準備、練習についても、ホームルームの内容として取り組むこととした。	「ホームルーム」の3つの柱について、今年度はそれぞれ各クラス、学年を中心として学習内容を深めていく。	
高 等 部	地域社会とのつながりを意識し、様々な人々と交流の機会を深める学習の機会を設ける。	・他学部や保護者、地域の方とのつながりをもつカフェ学習に取り組む。 ・2学期の文化交流会に加えて、3学期にも「しごと」の授業で製作した物品販売日を設定する。	A	B	・評議員会等、外部から来客がある機会を生かして、日頃校内で練習した成果を發揮し、実際におもてなしをする機会を作った。 ・最後まで生徒のモチベーションを維持するために、「しごと」で制作した物品を販売し、「ならにしまるシェ」と名付けた物品の販売会を3学期にも企画した。 ・新たにKonomiカフェ、トヨタカローラ富雄店で物販品販売を定期的に実施できるようになり、2学期からは生徒自らが交代で営業活動を始めたい。 ・農場班では、近大農学部との連携しユニバーサル農法に取り組み大和まな栽培を始めた。	・カフェ学習の定例化に向け検討し、学習活動として位置づける。 ・今後の新たな活動は、地域の方が望む活動をつなげていくという視点で検討する。	○就学前関係機関や卒業後関係機関との連携について 就学前の施設へ、入学前の子どもの様子を学校から見に行き、入学後に引き継いでほしい、また、学校での取組（タブレットを使った学習等）が卒業後の活動の場所でも継続していけるように、引き継いでほしい、との意見をいただいた。 引き続き、事業所を対象とした学校見学会や支援会議を通じて放課後等デイサービス事業所との情報共有を行い、様々な機会を通じて、事業所との連携を強めていきたい。 また、中度重度の生徒におけるICT機器の効果的活用法について研究・検討をすすめ、進路指導や支援の取組にいかしていく。
	自分の意思を表現する多様な手段を学習する機会を作る。	全生徒にタブレット、全教室にモニターを設置し、ともに活用方法を共有する。個別支援や視覚支援をすすめる。	B		・今年度より全教室にモニターを設置し、各教室で生徒が共有する。授業用のタブレットを共有することにより、生徒がいつでもどこでもタブレットを利用できるようになった。	・タブレットにとらわれず、生徒の得手不得手に合わせた手段を生徒に提供する。	

生徒指導部	本校児童生徒の安全確保を図る。	参加対象者のしぼり方や実施方法等について検討し、実施する。	A	A	・長期休業の前3回、交通安全教室を実施。 ・警察や市役所の交通安全教室を依頼し、模擬道路を教室で実施した。	・警察等が、外部機関と連携し、模範的な活動の取組も実施した。	
文化部	児童生徒の学習意欲を高め、創造性を伸ばす。	各学部の児童生徒の活動状況を把握し、指導する。	A	A	全校児童生徒の学習意欲を高め、創造性を伸ばす。	オープニングイベントなど、児童生徒の活動の活性化を図る。	
食育・保健部	食生活の改善と健康増進を図る。	歯磨き指導や食生活の改善を図る。	A	A	歯磨き指導や食生活の改善を図る。	毎年度、説明会を行い、歯磨き指導の継続を図る。	
進路支援部	ICT機器の活用を推進し、進路支援を図る。	保護者や生徒が活用しやすいよう、福祉事業所などのデータを整理を進める。	A	B	「事業所ブック」、事業所データベースの作成に取り組んだ。掲載する事業所を増やしていきたい。	効果的な活用の方法を検討していく。	
進路支援部	ICT機器の活用を推進し、進路支援を図る。	将来のためにつけたい力のアセスメントの作成に取り組む。	B	B	職員研修で、保護者や生徒が活用しやすいよう、福祉事業所などのデータを整理を進める。	小学部高学年、中学部小段階での児童生徒に対する支援を、保護者、教員も考える機会をもっていく。	

<p>人権教育推進委員会</p>	<p>一人ひとりを大切にする人権教育の在り方を追求する。</p>	<p>児童生徒が豊かに生きていくために、個々に配慮をした人権教育をすすめる。</p>	B	B	<p>児童・生徒の状態像に合わせた様々な活動を通じ、自分ごととして取り組むことを進める。毎月11日の「人権を確かめ合う日」において、教職員の在り方等について、教職員にアナウンスした。</p>	<p>・多様な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりの人権が守られるよう取り組みを進める。 ・研修案内、資料の配付などを通して研修の機会を充実させ、教職員の人権意識を高める。 ・「人権を確かめ合う日」の取り組みの継続とさらなる充実を図る。 ・地域住民への障害児者理解の啓発を引き続き進める。地域社会の変化やニーズに応じた取り組みを検討していく。</p>
		<p>地域と共にある学校作りを推進し、人権教育の啓発や交流通信の取組の充実を図る。</p>	A	<p>各学部等での地域との交流及び共同学習、地域資源を活用した授業等を通じ、地域住民の障害児（者）理解の啓発に努めた。交流通信で各学部の地域と関わり合いの紹介ができた。</p>		